

F. シューベルト：アヴェ・マリア (エレンの歌より)

F. Schubert (1797~1828): Ave Maria (Ellens Gesang 3 Op.52-6. D.839)

F. シューベルト：ヴァイオリン・ソナタ イ長調(グランド・デュオ)

F. Schubert (1797~1828): Sonata for Violin and Piano (Grand Duo) Op.162, D.574

〈お話〉千葉 真知子さん 料理研究家/『食べるクラシック』著者：

“音楽家たちの食の旅・その1～シューベルトお気に入りの料理は?”

H. ヴィラ=ロボス:黒鳥(黒い白鳥)の歌(1917)

H. Villa-Lobos (1887~1959): The Song of Black Swan (1917)

A. グラズノフ:グランド・アダージョ(バレエ『ライモンダ』Op.57より)

A. Glazunov (1865~1936): Grand Adagio from Raymonda (Ballet) Op.57

A. ドヴォルザーク:母の教えたまえし歌(ジプシーの歌 Op.55-4/ F. クライスラー編)

A. Dvorák (1841~1904)/F. Kreisler: Songs my Mother Taught Me (Gipsy Song) Op.55-4

M. de ファリヤ:スペイン舞曲(オペラ『はかない人生』より/ F. クライスラー編)

M. de Falla (1876~1946)/ F. Kreisler: Danse Espagnole from Opera “La Vida Breve”

鷺宮美幸 (Misachi Washimiya)

Pianist

桐朋女子高等学校を経て、桐朋学園大学ピアノ科卒業。在学中パリに留学。第56回日本音楽コンクールを皮切に、UFAM国際コンクールなど、多くのコンクールに入賞。ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団やイ・ムジチ合奏団のメンバー、ミッシャ・マイスキーなど国内外の著名なソリストと度々共演。「ピアノ&ピアニスト」(音楽之友社、2018年1月発行)の“日本の名ピアニストたち”にも選ばれた。NHK・BS「びあのピア」、NHK・FM「名曲リサイタル」にソロで、また室内楽、伴奏でも度々出演した。これまでにピアノを寺西昭子、村手静子、T.パラスキウェスコ、高木茉莉、松浪佳子の各氏に、室内楽をJ.M.ダマーズ、三善晃、H.ピュイグ=ロジョ、C.イヴァルディの各氏に、チェンバロを遠藤陽子氏に師事。現在、ソリスト、室内楽奏者、桐朋学園大学嘱託演奏員、オメガ・ピアノトリオのメンバーとして活躍。2022年5月にリリースした最新CD「鷺宮美幸ピアノ・リサイタル」(Pf.鷺宮美幸/ALCD9235/コジマ録音)は、雑誌「音楽現代」で特選盤に選出された。またこれまでに数多くのCDをリリースし、いずれも高い評価を得ている。

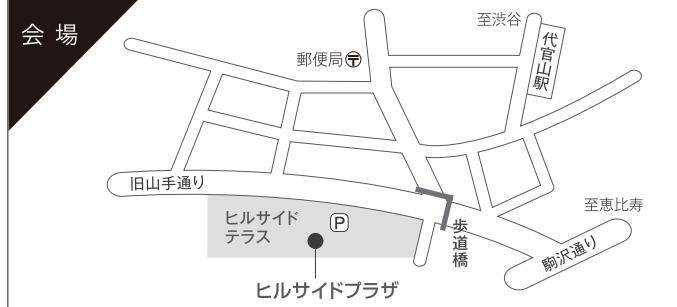
オフィシャルサイト <https://www.miyuki-washimiya.com/>

千葉真知子 (Machiko Chiba)

Cooking Artist

料理研究家として、主に東京・ニューヨークを拠点として活動。ニューヨーク生活新聞nyiseikatsu.comにて“千葉真知子のアートクッキング”を10年以上担当し、料理の普及につとめる。数々の国内料理コンクールにて入賞を果たすとともに、調理師学校でも電子レンジ調理の指導を行ってきた。10年の歳月をかけて開発した電子レンジ用調理鍋「クック膳」は経済産業省大賞を受賞、米国ではThe best of housewares2019を受賞。レンジを用いた世界初の和菓の調理法の開発も高い評価を受けている。米国の多くの大学(Stony Brook University, University of Pittsburgh, Carnegie Mellon University, Time Warner Center, William-Sonoma)などで講演活動を行い、名門料理学校コルドン・ブルーから、パリ本校およびロンドン・シカゴ分校での調理指導によりシェフの称号をうける。ヘルシーケッキングの啓蒙活動の一環として、東京大学医学部大学院看護学部にて学生講義を行う。また、ニューヨーク国連本部にて2020年和菓子のデモンストレーションを行う。出版活動としてはこれまで、英語版を含め20冊以上の料理書を出版。『クック膳の感動レシピ』(日経BP)はベストセラーになる。幻冬舎から出版された『食べるクラシック』はヨーロッパ各地を巡りながら文献を探して膨大な資料を集め、偉大な作曲家達が愛した料理、エピソードを書いた本である。出版後は多くのメディアで取り上げられ、ラジオ放送など数多くの番組が作られた。

<http://www.machiko-cook.com>



大津 純子 (Junko Ohtsu)

Violinist

東京芸術大学、米国ジュリアード音楽院卒業。同音楽院在学中にジュネス・ミュージカル・インターナショナル 及び、カーネギー・ホール両者による招待にてニューヨーク・デビュー。ニューヨーク・タイムズ紙上、「卓越した演奏」「将来を大きく期待される演奏家」との高い評価を受け、以後、本格的な米国内外での演奏活動を開始。セントルイス交響楽団、シモン・ボリバル・ヴェネズエラ国立オーケストラ他との協演、リサイタル・プログラム:《The Artistry of Junko Ohtsu》は、パブリックTVネットワークにて全米40都市以上に放映、米国各地でのラジオ放送出演も数多い。ロックフェラー三世財団より2年間に亘り特別グランプリ受賞。国際交流基金派遣にて ロシア、チェコ、オーストラリア、ベトナム、フィリピン、中南米諸国にて公演し絶賛される。

『ヴァイオリンの詩～ペル・エポック』、スペイン音楽選集『マラゲニヤ』(各・日本フォンデック)『Prelude to a Kiss』(BAJ Records)などCD5枚をリリース。『マラゲニヤ』収録曲のE.グラナドス:ヴァイオリン・ソナタは、“素晴らしい録音…”(音楽評論家・諸石幸生氏)と評価高い本邦初録音となる。また、アメリカ女流音楽家と構成するEcco Trio (ピアノ・トリオ)によるアルバム『アメリカ』はくレコード芸術>誌「室内楽準推薦盤」に選出された。2011年2月、東北民謡集DVD『あいの風～Wind from Northeast』をプロデュース・リリース(この収益全額は東日本大震災復興のために寄付)。その意想外な企画と、ヴァイオリンによる津軽・南部地方の民謡(編曲)演奏の新鮮なアプローチは称賛の的となる。

2002年、『Good Old Days』～ アメリカのく素敵な時代>室内楽シリーズ を企画・プロデュース。日本のクラシック音楽シーンの盲点であった“知られざるアメリカ”にスポットをあてた文化度の高い企画として各界の注目を浴びる。2004～2011年、故・和田誠氏(イラストレーター)及び佐藤允彦氏(ジャズピアニスト)と共に《Junko and the Night and the Music》シリーズを開催。3人の異なるバックグラウンドを生かしたユニークな企画は好評を博す。2012年、《純子の音楽ミニ・キャラバン》(小さなお子さん・学生さん対象に“音楽の楽しみ”を届ける出張演奏会)を開始。東京・代官山ヒルサイドプラザにて年2回開催の《心のコンサート・シリーズ》は2015年に10周年を迎えた。2000年より毎秋、国立情報学研究所主催による《軽井沢土曜懇話会》(情報工学における権威、故・猪瀬博氏開設)に招かれてレクチャー・コンサートを行っている。現在、執筆・講演の分野にも活動の場を広げている。

■コンサートお申込み書 (FAX送信先: 03-3486-8740)

お名前

ご連絡先

ご住所

名